

第5学年 特別の教科 道徳 学習指導案

第5学年3組

- 1 主題名 社会に役立つとは C 勤労、公共の精神
- 2 教材名 「クール・ボランティア」 (出典：光村図書「どうとく」)
- 3 本時

(1) ねらい

ボランティア活動への見方が変わる信二の姿などを通して、ボランティア活動を支える心について考えさせ、勤労や社会奉仕の意義ややりがいを理解し、公共のために役立つとする心情を育てる。

(2) 展開

	主な学習活動 ○発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価
導入	(1) ボランティア活動の経験について振り返る。 ○ボランティア活動に取り組んだことはありますか。 ・4年生のときに地域のごみ拾いをした。 ・地域行事のお手伝いをしたことがある。	○事前にアンケートをとり、どんなボランティア活動に取り組んだことがあるか紹介する。
	ボランティア活動を支える心について、考えよう	
展開前段	(2) 「クール・ボランティア」を読んで、話し合う。 ①「どうせやるなら、カッコいいほうがいいじゃないか。」と言った信二が思っていたボランティアとは、どんなものでしょう。 ・外国で活動すること。 ・特別な技術をおしえるもの。 ②「これがクール・ボランティアだよ」と言われた信二は、どんなことを考えたでしょう。 ・カッコいい、カッコよくない、という考えは間違っていた。 ・みんなのために働くのは気持ちがいい。 ・みんなの役に立つことを考え、自分から進んでやることが大切なんだ。	○信二の考えている、カッコいいボランティアは、ボランティアの本質を欠いた自分本位のものであることに気付けるようにする。 ○何をきっかけに考えが変わったのかを捉えられるようにする。
展開後段	③ボランティア活動は、人々のどんな気持ちに支えられているのでしょうか。 ・相手や周りの人が、生活しやすいようにしたい、という気持ち。 ・困っている人を助けたい、という気持ち。 ・相手の役に立ちたい、という気持ち。 ・できることに取り組み、社会をよりよくしたい、という気持ち。	○小グループでの活動とし、ボランティアの動機を、活動する側の気持ち、援助を受ける側の気持ちなど、様々な視点から考えられるようにする。 ☆ボランティア活動を支える心について考えることができたか。
終末	(3) 本時の学びを振り返る。	○身近で取り組めるボランティア活動を紹介し、実践意欲へとつながるようにする。